

授業評価・授業研究報告

美術教育講座・福井一真

平成 27 年度 2 年次後学期（火曜日 4 限）の教職科目 B 美術科教育法Ⅱについての授業評価・授業研究報告を行う。担当者：福井一真／登録学生数 11 名。

1 授業の目的および概要について

本授業は高等学校芸術科美術の学習指導に必要な基礎的知識と技能を身につけることを目的とし、以下の 3 点を到達目標としている。

- (1) 高等学校学習指導要領芸術科美術の内容を理解し、各学年及び各領域の目標や内容を説明することができる。
- (2) 生涯学習への発展を考慮した教材開発や授業設計の方法を身につける。
- (3) 活動を提案し、主体的に実践することができる。

2 授業を行う上での工夫

2 年次前期の美術科教育法Ⅰ（秋山敏行担当）での学習内容（主に中学校での美術科）を引き継ぎ、高校における美術の授業を考える内容としている。また、3 年次前期の美術科教育法Ⅲでは授業づくりを主とした内容となっていくため、ⅠからⅢへと発展していく学習内容を踏まえた授業構成にした。具体的には、年間指導計画を立案し、教材研究を深めた上で、授業の導入部分の 45 分間の模擬授業の実施・省察を通して、授業を立案・実施するための自己課題を明確化できるような工夫を行った。

3 授業アンケートの結果

授業アンケート（平成 28 年 2 月 12 日に実施）は、10 名の回答を得ることができた。

3-1 授業全体について

【総合的にこの授業は満足だった】という設問に対して、「とてもあてはまる」10 名、【全体的にこの授業を真剣に受けた。】という設問に対しては、「あまりあてはまらない」1 名、「まあまああてはまる」4 名、「とてもあてはまる」5 名という回答を得た。この結果から、授業全体を通して、多くの学生が積極的に授業に取り組んでいたと判断することができる。

【毎時間配布する授業シートは授業理解に役立った】

という設問では、「まあまああてはまる」2 名、「とてもあてはまる」8 名、続く【模擬授業の省察の実施方法は適切だった】という設問では「まあまああてはまる」1 名、「とてもあてはまる」9 名、【美術科教育法Ⅱの授業の内容は教育実習や今後、教師になってからも役に立つ】という設問では「とてもあてはまる」10 名という回答を得た。

この結果から、学生にとって、本授業の実施方法については概ね良好であったということがわかった。

3-2 授業時間外学習について

【授業時間外学習の設定は適切であった。】という設問にたいしては、「まあまああてはまる」4 名、「とてもあてはまる」6 名という回答を得た。さらに、【授業時間外学習ではどのようなことを行いましたか】という設問に対する記述をみると、模擬授業の準備等を行った学生が 8 名、教材研究を行った学生が 2 名、その他、年間指導計画や美術教育についての本を読んだ学生がそれぞれ 1 名ずつとなった。

4 成果と課題

【本授業の改善点】についての回答は、特に得られなかったが、【本授業の良いと思う点】については以下のような記述がみられた。

- ・班分けをして模擬授業を相互に省察できた点
- ・欠点があった（自分の）
- ・授業を計画する際に学習指導要領に沿っているか、生徒はどう受け止めるかなど、確認の指標ができた
- ・グループで模擬授業を行うことで協力し合うこともでき、様々な考え方もできた。
- ・計画的に授業のつくり方を学べ実践できた。
- ・模擬授業の省察の時間等、意見を言い合える時間が多い

これらの意見から、各模擬授業をしっかりと省察する時間を設定することで、自己課題を明確にすることができていたようである。とはいうものの、主にグループでの活動が多いため、学生一人ひとりの学習の成果を捉えることが難しいことは否めない。次年度以降はその点についての改善を図りたい。